

東久留米のいきもの(6月7月の野草:林縁部や林の中など)No.1



キジカクシ科オオバジャノヒゲ



キジカクシ科ナガバジャノヒゲ



キジカクシ科オオバギボウシ



キジカクシ科コバギボウシ



ツユクサ科ヤブミョウガ

オオバジャノヒゲ:6月21日開花確認。市内各所の生育数および開花する個体も減少傾向。

ナガバジャノヒゲ:7月3日開花確認。薄い紫色の小花が細長い葉の中で隠れるように咲いている。

オオバギボウシ(6月30日開花確認)とコバギボウシ(7月26日開花確認):両種とも玉川上水と野火止用水の流れが市内に届けた山地性植物。温暖化によるものなのか残念ながら減少傾向。

ヤブミョウガ:6月20日開花確認。市内では多くの緑地で群生している。若芽などは山菜として食用となるが生長したものは食には適さないとの事。

東久留米のいきもの(6月7月の野草:林縁部や林の中など)No.2



アカバナ科ミズタマソウ



キキョウ科ツリガネニンジン



キク科ノコンギク



キク科アキノキリンソウ



キク科ヒヨドリバナ



マメ科フジカンゾウ

ミズタマソウ:7月26日開花確認。小さな白色の花は拡大して観察するとハート形をして愛らしい。

ツリガネニンジン:7月26日開花確認。管理された林縁部では増加傾向にあるが、市内の他生育地では減少傾向。

ノコンギク:7月26日開花確認。陽の当たる生育地ではかろうじて残っているが、林内部では徐々に見えなくなっている。

アキノキリンソウ:7月9日開花確認。市内では管理地でかろうじて生育しているが、他では絶滅状態。

ヒヨドリバナ:6月26日開花確認。生育地が数箇所のみと絶滅の

危機を迎えている。フジカンゾウ:6月26日開花確認。各地の緑地で普通に観察可能。

東久留米のいきもの(6月7月の野草:林縁部や林の中など)No.3



スイカズラ科ソクズ



シソ科ツルニガクサ



シソ科ニガクサ



シソ科アキノタムラソウ



シソ科イストウバナ

ソクズ:6月21日開花確認。開花時期には頭頂部に無数の小花を咲かせ、結実して熟すとサンゴのような赤色した実になる。生育地では林縁部樹林のセットバック工事により、陽当たりが良くなり生育状況が好転。
ツルニガクサ:7月5日開花確認。生育地は森林再生など行っているが、森化が進んだことにより林床が暗く個体数減少に歯止めがかからない。

ニガクサ:6月24日開花確認。複数の生育地があるものの減少傾向の他、開花する個体も少なくなった。

アキノタムラソウ:7月8日開花確認。他の在来種同様に減少傾向。以前、白花の個体も見られたが最近では観察できない。

イストウバナ:7月26日開花確認。市内では生育箇所および個体数も少ない。

東久留米のいきもの(6月7月の野草:林縁部や林の中など)No.4



ラン科タシロラン



バラ科ダイコンソウ



ツルボラン科ヤブカンゾウ



ツルボラン科ノカンゾウ



ヒガンバナ科キツネノカミソリ



ユリ科オニユリ

タシロラン: 6月24日開花確認。腐生ランの仲間。薄暗く落葉などが堆積した場所などで観察できる。

ダイコンソウ: 7月5日開花確認。茎の根元付近の葉が大根の葉に似ていることが名前の由来。在来種であり減少傾向。

ヤブカンゾウ: 6月23日開花確認。道端や土手、林縁など生育地は多彩だが徐々に開花する個体が減少傾向。

ノカンゾウ: 6月27日開花確認。湿潤な場所や林縁部などで観察できる。ヤブカンゾウ同様に開花する個体が減少傾向。

キツネノカミソリ: 7月25日開花確認。絶滅危惧種。市内では、

今年も大幅減少。オニユリ: 7月2日開花確認。市内の緑地では持込みや逸出した個体が多数見られる。

東久留米のいきもの(6月7月の野草:林縁部や林の中など)No.5



ユリ科ヤマユリ



ユリ科ヤマホトギス



ユリ科ウバユリ



ユリ科カノコユリ

ヤマユリ:7月4日開花確認。開花すると大輪で白色の花が目立つ他、強い芳香が鼻を突く。以前から盗掘が続いており、特定の場所では消滅の危機。植物が選んで定着した場所で観察して欲しいものだ。

ヤマホトギス:7月5日開花確認。生育場所が限定されている他、個体数も減少傾向。

ウバユリ:7月25日開花確認。市内では複数力所で観察できるが、他の在来種同様に減少傾向。

カノコユリ:7月25日開花確認。自生地は九州や四国とあり、市内の個体は植物愛好家などが緑地内に持ち込んだと思われる。花の色は、写真の赤色の他、白色などもあり、ヤマユリ同様に芳香を放つ。